

「聖化と聖潔」

～罪の自分に死ぬキリストの従順～

ローマ6：1-21

私達の人生の中では、人生をダメにしてしまうような悲しい出来事があったり、自分自身がそれをしてしまっていて、全てがそれによって台無しになるような出来事があったりします。神様は水をぶどう酒に変えたようにあなたの人生になさろうとしています。

ローマ書の1章から5章ではあなたが罪びとであることを示し続けてきました。私達が神様の恵みからそれた行動は、自分が罪を犯していることを隠して自分は正しいんだという思いにいかにか作り替えて自分をきれいな存在にして相手を見下すか、自分の罪を見ないようにして自分はダメなんだと言い聞かせて人と比較してなるべくモグラのように生きていくかの二つです。

神様は罪をも清めて良きものに変えようとする方です。

自分の中の死んだふりをした罪の部分に触れられると、人と比較し、自分が言われて嫌なことをその人に言ってしまいます。悪く言うぐらいなら良いが、自分には関係ないという最大の罪「無関心」に至ってしまいます。

ローマ書6章からは罪人である事を理解した私達がどう進まなければならないのかを語り始められます。

ローマ人への手紙

6:5 もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。

6:6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。

6:7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。

■ ①水のパプテスマと葬儀

私達は今日から新しい人生をスタートしなければなりません。新しい人生をスタートさせる為、前に持っていたものを本当に殺さなければなりません。

あなたの心の中心には誰がいるのでしょうか？あなたの人生を誰が決めているのでしょうか？あなたの心の決断は誰によって促されているのでしょうか？

もしそこにあなたの声があるのなら、心の中心にいるのはあなたです。だからキリストはあなたを背負って十字架にかかりました。

洗礼式は、その形ではなく、受けた人がどれだけこれで自分に死ぬんだということが解っているかどうかです。

人が一度持った価値観は、本当にその罪が

罪であることを理解できない限り人は変わりません。言い訳をしているうちは、その罪は繰り返されてしまいます。

■ ②義の奴隷となるために明るみに

あなたが隠していて、それがいけないと解りながら続けていることがあるなら、本当に信頼できる人と共に一緒に祈ってもらう必要があります。そしてそれが解決されるまで一緒に闘うと本質的な変化が起こりそこから抜け出す事が出来ます。

■ ③いのちに至るパプテスマ

私達の心は、イエスキリストを迎えてもまだ自我がうごめいています。

自分で自分の罪を克服することは出来ません。

そして、罪を犯していることを責めないで下さい。責めはその罪を隠します。

聖書は犯してはならない罪という律法がかかれています。しかし、律法が何を伝えたいかということ、あなたが罪人であるという事を伝えたいのです。そして、罪人だと解った私達は神様の前に「ごめんなさい」そして「この罪をやめたい。私を助けて下さい」と言える恵みを与えたいのです。

罪とは「罪を犯しているにもかかわらず、自分は悪くない」と言うことです。罪は、罪と理解された時点で許されます。罪が十字架に向くからです。

罪は全て自分を守ろうとする行為から始まります。死んだ者を生き返らせず、問題が起きた時、「自分に何か問題がなかったか？」を見て、和解を求めて下さい。

まとめ

"キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。

このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。"

ローマ人への手紙6章9～11節

ローマ書は、私たちにとってとても大切な御言葉です。

しっかりと読み、実践していきましょう！！

(要約者:辻 総一郎)

(2019年6月9日)